

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

大阪府 池田市

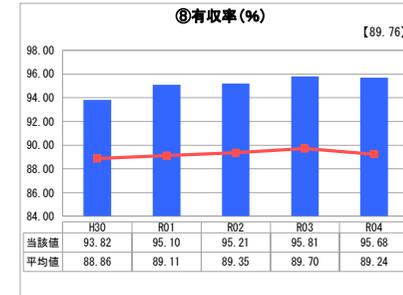
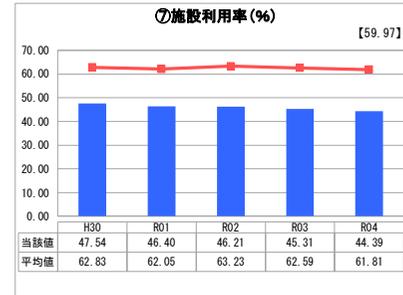
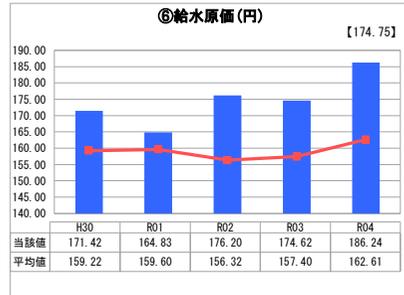
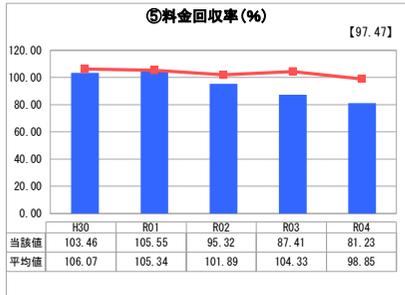
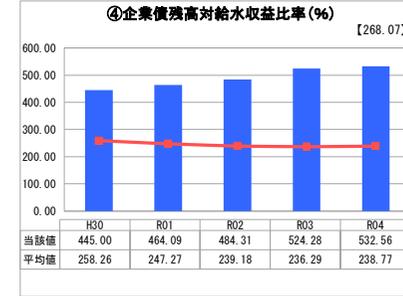
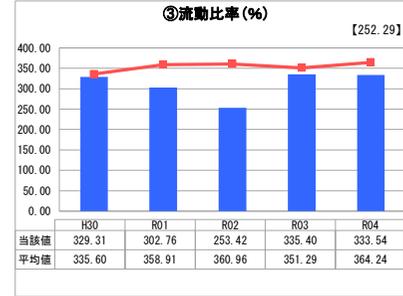
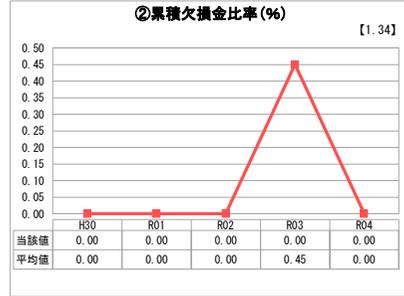
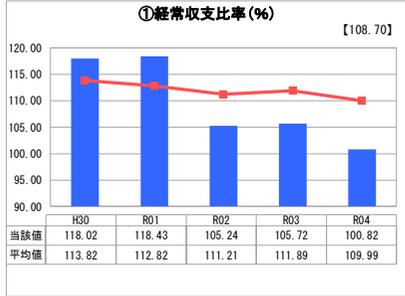
業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	58.56	99.98	2,651	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
103,074	22.14	4,655.56
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
103,046	13.44	7,667.11

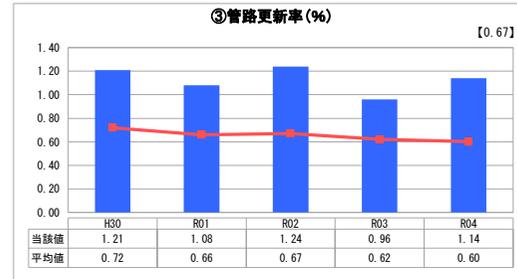
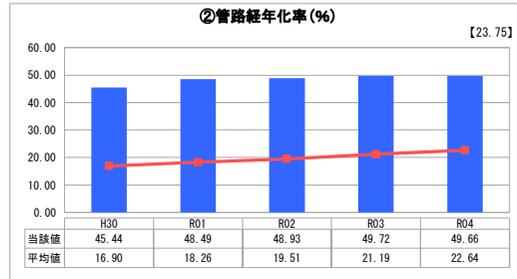
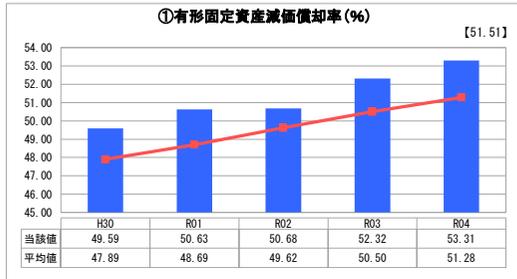
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

収益性については、①経常収支比率は100%を上回っているものの、昨年に引き続き、給水収益の減少により類似団体平均値を下回った。⑤料金回収率は、新型コロナウイルス感染症対策の一環としての水道料金の減免事業を令和4年度も実施したこと、及び大口使用者の使用水量の減少による影響で給水収益が減少し、令和3年度と同様に100%を大きく下回っている。⑥給水原価は設備更新工事による減価償却費が増加傾向にあるため、類似団体平均値を上回る状況が続いている。

財政状態については、③流動比率は平成29年度より類似団体平均値を下回っているものの、100%を超える状況が続いていることから、1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等を十分に保有している状況である。一方で、④企業債残高対給水収益比率については、施設整備計画に沿って施設の更新を行ったことに伴い、施設の整備に係る企業債の発行額が多額となったため、類似団体平均値を大きく上回っている。

施設の活用については、水需要の減少により⑦施設利用率が類似団体平均値と比べて低い状況が続いている。一方、⑧有収率は漏水対策の強化により近年は改善傾向にあり、施設の稼働は概ね収益に反映されていると考えられる。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は微増傾向で、依然、類似団体平均値と比較すると少し高い水準にある。②管路経年化率については、令和4年度は横ばいで推移したものの近年増加傾向にあり、類似団体平均値を大きく上回っている。これは早期に管路を整備したことによるものである。なお、管路については施設整備計画に基づき毎年着実に更新していることから、③管路更新率は概ね1%前後で推移している。

## 全体総括

令和4年度は、平成23年度から施行している施設整備計画の最終年度であり、計画に基づく管路の更新を行った。また、上記に加え、取水施設の設備更新等を実施した。そして、危機管理体制の充実及び既存施設の更新を主体とした第2次施設整備計画を策定し、令和5年度から施行することとした。これらの現状や将来の水需要の減少、老朽化施設の更新需要の増加を鑑み、将来にわたり水道事業を持続可能なものにするために業務の委託や設備更新に取り組んでいる。しかし今後は、施設の維持管理費を含む経費の削減等、さらなるコストカットを行うとともに、老朽化した施設の更新についても重要度・優先度を考慮して着実に実施していく必要がある。令和5年度に改定した経営戦略をもとに、中長期的な視点で将来を見据えた事業運営を行っていく。